



Covid-19 (病名:コヴィッド・ナインティーン-新型コロナウイルス感染症)と

新しい発想

イタリアは、新型ウィルスSars-Cov 2 (ウィルス名:サーズ・シーオーブイ・ツー) の感染防止措置をヨーロッパで最初に施行した国。1月末に中国往来の飛行機便の離発着を禁止したことで、イタリアから地理的に遠いアジアのニュースだろうと皆が油断していた。ところが、2月21日にロンバルディア州コドーニョ市で感染患者第一号が確認された。患者の住む市が即封鎖され、その後わずか20日足らずという速さでイタリア全土が都市封鎖された。刻一刻と感染状況が変化していく様子を、国民全員が自宅から固唾を飲んで見守った。

ほどなくイタリアでは、1日の死亡者数が969人に達し、感染者が多く発生したロンバルディア州ベルガモ市から伝えられた、軍のジープで他州の墓地へ運ばれていく多数の棺の映像は、国内外へ大きな衝撃を与えた。

イタリアでは、買い物など生活に最低限必要な目的以外では外出してはいけない法律が出され、違反者には罰金が科される措置が取られたためかなり精神的に厳しい状況が発生したが、それらを緩和するために、都市封鎖後まもなく互いを支援し合う動きが始まった。買い物一つでも、スーパー入り口で長蛇の列に何時間も並ばなくてはならない為、同じマンションの住人同士で宅配をまとめて発注したり、マンション共有の冷蔵庫を設置したり、日常生活を少しでも円滑に過ごせるよう工夫が生まれた。貧困層の問題も浮上、働きたくても職場が閉鎖になった人や、日雇い労働者など食べるものに困る人たちにスポットが当たった。昔からナポリでは、Caffè sospesoというお金がなくてバールでエスプレッソコーヒーが飲めない人のために、他の人が自分のコーヒー代と誰かのために合わせて2杯分のお金をバールで支払う支援システムがある。それを倣って、辻々のマンションの入り口に「ある人はここに置いて、ない人は持って行ってください」と書かれたパスタやクッキーなど食品を提供するカゴが設けられた。イタリア人が昔から持っている助け合いの精神が見事に開花し、その精神がエコーのように広がっていったのには驚いた。

落ち込む気分を盛り上げるネットから発信される様々なアトラクションやコース、精神をリラックスさせるヨガ、この機に能力を上げるための英会話レッスン、普段は時間がなくてできなかったパン作り、そしてミュージシャンが自宅でコンサートを開きインスタグラムから発信、歌の合間に世界各国からネッ

ミュージシャンJOVANOTTIがロックダウン中に、インスタグラムで自宅から発信し続けた「JOVA HOUSE PARTY」、ゲストに招いた心理学者MASSIMO RICICALCATIへのインタビューの様子。



画像) WWW.INSTAGRAM.COM



自宅バルコニーから、チェロを奏でる音楽家。

画像) WWW.REPUBBLICA.IT

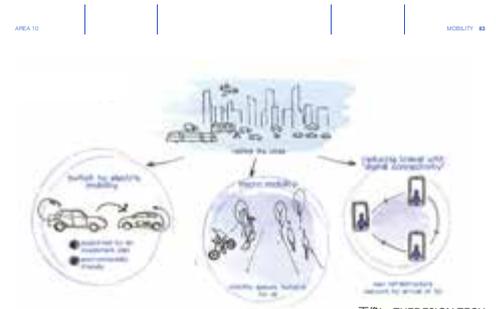
か、という気運が高まり、企業や専門家へ向け最新テクノロジーを盛り込んだデザイン解決案を示す、再出発のためのプログラムを提供することとなった。デザイン分野を、不動産・リビング・ワークスペース・リテイルなど16項目に分け、それぞれの項目ごとに世界的に著名な建築事務所やデザイナーをコーディネイターとして起用。Pininfarina ArchitectureやZaha Hadid Architectsの名前も連なる。5月中旬に、デザインとテクノロジーを統合した16項目に対する一連の解決策が「DesignTech for future」として発表された。

DesignTech for futureはこちらからご覧ください
www.binipartners.it/books-item/designtech-for-future-white-paper/

毎年6回、世界各国からジャーナリスト・バイヤーを招いて開催されてきた、ミラノファッションウィークはどのように対応したのか。ここ数年の間で、イタリアンファッションと中国の関係が強固に結ばれてきただけにダメージは大きかった。2月23日まで予定されていたファッションショーは、感染拡大を危惧してほとんどがキャンセルとなった。しかし、そんな中でも世界のジョルジオ・アルマーニは躊躇することなく予定通り2月23日16時から、見事にそしてエレガントに無観客ファッションショーを実現、ショーの様子はブランドのサイトからライブ発信された。2009年から2019年にかけて制作されたアルマーニ・プリヴェ・コレクションの中から赤いイブニングドレスを中心に選び、ファッションショーを通じて中国へオマージュを捧げた形だ。これを機にアルマーニ、グッチをはじめとする多くのブランドが、ショーの開催を年2回に変更する予定だが、シャネルだけは「自由な創造力を表現すること」の大切さを尊重し、これまで通り年6回開催を宣言している。

ソーシャルディスタンスへの措置は、当然のことながら市民の習慣や生活様式を変化させたが、中でも公共交通機関の利用が避けられるようになった。移動手段として自転車やキックスケーターを使う人も急増している。そこで、イタリア人建築家Arturo Tedeschiは、イタリア国内の中でも特に大きなダメージを受けたミラノ市へ、デザイン性が高く親しみが持てるトラム（路面電車）のデザインを提案。1929年に導入され、これまで長年愛されてきたClass1500を基本モデルにデザインされた「Passerella（ランウェイ）」と名付けられた車両は、ファッションショーのランウェイをコンセプトに、まるで舞台装飾のようなインテリアが施されている。天井まで設置されたプレキシグラス製の席を遮断するパーティションには、統一モチーフのゴールドのサークルが描かれ、床にもソーシャルディスタンスが保てるよう、乗客が一定の距離を保って立つ位置を示すサークルが描かれている。車内で歩く乗客が、まるでファッションモデルになった気分を味わえるデザイン性、実現したら是非乗ってみたい。

Passerellaの詳細画像はこちらからご覧ください
www.dezeen.com/2020/07/16/arturo-tedeschi-passerella-social-distancing-tram-design/



THEDESIGN.TECH
 テクノロジーを活用した、人の移動に関する基本コンセプト。



D.REPUBBLICA.IT
 アルマーニの無観客ファッションショー。



WWW.DEZEEN.COM
 ARTURO TEDESCHIデザインのトラム。

ロンバルディア州ブレシャ市も感染者が多く発生した街。ここでデザインコンサルティングを行う企業ISINNOVA社が、デザインを活用して即行った支援は非常に有効で大きな話題を呼んだ。集中治療室で人工呼吸器に必要な器具が不足していることを、市の大きな病院の医師から伝えられた彼らは、医師と協力し医療用のバルブを設計、3Dプリンターで作り出し、市販のシュノーケリング用マスクに装着することで仕入れにかかる時間を短縮した。一刻も争う状況の中で、この対応は脚光を浴びただけでなく、制作に携わったメーカーズdMakeとFabLab Bresciaが設計データを世界中の3Dプリンターのネットワークを通して誰でも活用できるよう拡散したことは、まさにこれがデザインの真髄、と言える素晴らしいアクションだった。

Covid-19のイタリア産業界への好影響を敢えて挙げるとすれば、それまで個人主義、自己中心的に事業を営んできた中小企業が、それぞれの持ち前の技術を生かし協力し補い合い、互いのスキルを高めながら社会のニーズへ応えるものづくりを始めたこと、といえるだろう。ブレシャ市を含む北イタリアは、多方面で製造能力に長けたヨーロッパを代表する地域だが、ロンバルディア州が医療に必要な器材や物資を他国から輸入しようと試みている時に、他国に頼らなくても地域企業の技術を出し合って力を合わせれば、州に必要なものは自分たちで作れるはずだ、とOrgoglio Brescianoという地域企業のネットワークが生まれた。このネットワークに、建築家Carlo Ratti主宰のStudio CRAを中心とした、建築家、エンジニアと医療関係者が手掛ける、CURA (Connected Units for Respiratory Aliments) というプロジェクトも関わっている。運送用コンテナを再利用し、必要に応じて規模を決められるモジュール式の集中治療室。スペースに限りのある医療施設と異なり、緊急時には、病院に隣接する屋外空間などに必要なベッド数を増設できる。必要にならないことを祈るが。



画像) WWW.LINKIESTA.IT

集中治療室に使われる人工呼吸器用のマスク、赤い部分が3Dプリンターで製作されるバルブ。



画像) WWW.SQUINTOPERA.COM

緊急用医療コンテナ「CURA」の活用例。

CURAの紹介ビデオはこちらからご覧ください

www.youtube.com/watch?time_continue=41&v=iHa-BaJytgQ&feature=emb_logo

もう一つブレシャ市を拠点とするメーカーが開発した新技術。これまで、PVDコーティングによって0.3から2マイクロメートルの薄さのフィルムで、独自のメタル表面加工を開発してきたProtim社は、抗菌・除菌フィルムAbaco®を誕生させた。メタルやABS樹脂などの表面に加工が可能で、その効果は一生保証されている。ドアノブや飲食店のナイフ・キッチン用具、またカラトリー、蛇口、など用途は広い。この最新技術に目をつけたミラノのデザインブランドPLHは、スイッチの表面をAbaco®でコーティングしたインテリアアクセサリを発売。特に、ミラノなど大きな都市のマンション等のエレベーターでの感染が心配されているが、そういった不特定多数の人が触れるボタンを無菌ボタンに変更することで、感染経路が遮断されるに違いない。

日本と気候や衛生観念が異なるイタリアではこれまで話題にはならなかったが、ここにきてやっと注目されている携帯電話スクリーンの殺菌。イタリア人デザイナーManuela SimonelliとAndrea Quaglioは、バッテリー



画像) WWW.PLHITALIA.COM

ABACO®をコーティングしたスイッチ。



画像) LEXON-DESIGN.COM

バッテリー充電とスクリーン殺菌を同時に行う「OBLIO」。

チャージとスクリーン殺菌が同時に行えるOblioをデザインした。すっきりとしたデザインのバケツ型の内部に携帯電話を入れると、20分でワイヤレスで充電され、同時にUVC（短波長紫外線）がスクリーンを殺菌する。一家に一台欲しいインテリア小物、と言える。

Sars-Cov2感染拡大前までマスクを使う習慣のなかったイタリアでも、感染予防のためには着用しなければならない。元々それほど重要視されていなかったものなので国内の在庫は少なく、当初は皆に行き渡らないことがとても懸念された。そこで、ファッション関係の企業などが急遽マスク製造に取りかかったり、個人の手作りで急場を凌いだりしたが、今は老若男女を問わず誰もがデザインを選んで着用できるほど状況は改善された。日本と違って、イタリア流のマスクの付け方には個人の意向が大きく反映しているようだ。中には感染経路を断つ、というよりも一種の制服の感覚で着崩している人も見かける。そんなイタリア的マスク事情を5つのタイプに分けて、イラストレーターEmilio Lonardoが表現しているのが微笑ましい。



画像) WWW.DOMUSWEB.IT

イタリア経済が打撃を受ける状況の中で、さらにメイド・イン・イタリーを国内外にアピールする動きが活発化している。需要の高まったマスクの製造でも、イタリアならではのデザインとマニュファクチャーの多様性がクローズアップされている。

天然素材を使った布地やアクセサリを手がけるテキスタイルデザイナーRana Feghiliは、無機質な外科用マスクとは異なった個性あふれるマスク作りに着手。コモ市の絹繊維メーカーから取り寄せたアレルギー反応を起こさない高級シルクを使用し、呼吸器科医の夫の助言で商品化を達成。マスクはシルクかコットンとの二枚重ねで、その間に取り替え可能なフィルターを差し込めるポケットがあり、一本ずつ丁寧にカットされた銅線を挿入し鼻の部分にぴったりとフィットする工夫がなされている。

作品はこちらからご覧ください www.instagram.com/lamascherinadiseta/

ジュエリーのデザイン・製作を手がけるMIA'Sもエレガントなサテン生地マスクをデザイン、ファッションとコーディネートできる12色を揃えている。

カラーバリエーションはこちらからご覧ください <https://miasitaly.com/cat/mascherine/>

都市閉鎖中に生まれたブランドReimiroのマスクは、ヴェネト州のニット工場で廃棄されるコットン繊維を再利用して作られている。多様な繊維の色味から生まれるメランジュは柔らかさがあり、伸縮性のあるニットは顔に優しくフィット。OEKO-TEX繊維テストで認定を受けた取り替え可能なフィルターが通気性をカットしてくれる。

バリエーションはこちらからご覧ください <https://reimiro.com/>



画像) WWW.INSTAGRAM.COM_LAMASCHERINADISETA

シルク生地のマスク。



画像) MIASITALY.COM

MIA'Sのサテンのマスク。



画像) WWW.INSTAGRAM.COM_REIMIRO_KNITWEAR

REIMIROのニット製マスク。

公共スペースやオープンスペースのオフィスで、そこにいる人が安心して過ごせるよう工夫を凝らしたプロダクトが提案されている。ベルガモ市で軽量ストラクチャーの設計と製造を専門にするTrasforma社は、素材とテクノロジーを絶妙に組み合わせ、どんなスペースにもフレキシブルに対応できるパーティションTEXOを開発。モジュール式の成型アルミのフレームへ抗菌・抗ウィルス能力を持つ銀の粒子の繊維を張ったパネルをはめ込んでいる。ロゴやグラフィックのプリント加工や照明を加えるなどパネル仕上げはパーソナライズが可能。

TEXOの詳細はこちらからご覧ください
www.tensoformasrl.com/texto-fighting-covid19

また、マルケ州の照明器具メーカーMarchetti Illuminazione社は、景観へのインパクトを抑えつつスペースを仕切り、ソーシャルディスタンスを促すアーバンファニチャーAr_Co.を考案。2つのメタルのベースを照明器具が内蔵されたアーチで結び、広場や公園、ビーチなどの公共スペースへ簡単に設置できるシステムだ。スリムなデザインで存在感をあまり見せつけないが、こうした柵があるだけで他と自然に距離を保つに違いない。

空港の待合スペースやホテルのホール、人が密集しやすい場所でのソーシャルディスタンス。ヴェネト州でオフィスや公共スペースに設置するモジュール式の家具を製造するArper社は、従来の自社製品のコンポーネントの組み合わせを変えることで、その答えを見つけた。例えば、ロビーなどに納入してきたベンチKiik、今まではいくつかのシートの間にテーブルを挟む組み合わせだったが、シートとテーブルを一つずつ交互に組み合わせることでシート間の距離をあらかじめ設定する。オフィスの会議室に置くテーブルとキャスター付き椅子についても、椅子の数を半分にし、テーブルにパーティションを組み込むことで、ドロップレットを防止する。モジュール式ファニチャーならではの柔軟性が生かされている。

ユネスコの統計データによると、今年3月26日から4月26日の1ヶ月間、世界180カ国で全体の87.4%に当たる15億人の学生が登校できなかった。イタリアの新学期は毎年9月、今年の学校初めは9月14日に決まっている。ただ、夏のバカンスシーズン中に130ものクラスターが発生し、感染拡大が懸念されているのでどのように開始されるのか、未だ検討中とのこと。ロックダウン中のオンライン授業は接続環境が100%整っていない中、先生をはじめとし家庭でもついて行くのはアクロバティックともいえる至難の技で、誰もがあの経験を繰り返したくない、と思っている。感染者の年齢層が低くなっていることもあり、校内で感染を防ぐ方法がいろいろと検討されているが、まずは1クラスの人数を半分にし生徒間の一定距離を保つ機の配置や、屋外を活用して授業を行うなどの案も出されている。マントヴァ市の建築スタジオbc studioは、即実



画像) WWW.DESIGN.REPUBLICA.IT
TRASFORMA社が開発した抗菌パーティションシステムTEXOの活用例。



画像) WWW.UNICAM.IT
アーバンファニチャーAR_CO.の活用例。



画像) WWW.DOMUSWEB
ソーシャルディスタンス仕様に組み合わされたARPER社のベンチKIIK。



画像) WWW.ARCHILOVERS.COM
BC STUDIOが提案する教育施設用ボックス。

現可能な自立するボックス「qb _ quarentine box」を考案した。生徒の年齢に応じて1.2mから1.8mの高さに設定された、プレハブの木製フレームへプレキシガラス板をはめ込む、というシンプルな構造。空間に応じてどこへでも設置することができ、屋外で使用する場合にはプレキシガラスの代わりに不織布を張るなど、フレキシブルに活用できる。コロナ禍が過ぎ去った暁には、全ての素材はリサイクルされるように考えられている。

詳細はこちらのサイトからご覧ください
www.archilovers.com/projects/270948/qb-quarentine-box.html#images

今の状況下では、多方面で日常の行動が制限されているためアクションを起こしづらいが、その反面、想像力を思いっきり羽ばたかせる絶好のチャンス、という良い面もある。

そんな想像力に溢れたアイデアとして最近話題になったのは、アムステルダムで活動するフィレンツェ出身若手建築家Angelo Rennaのプロジェクト。建築の中に自然のエレメントを取り込んで完成させるアプローチを続ける彼は、1926年に建造され、現在取り壊しが決まっているミラノのサッカースタジアム



ANGELO RENNAのプロジェクト、COVID-19犠牲者のための記念公園のレンダリング。
画像) WWW.DEZEEN.COM

San Siroを、Covid-19の犠牲者の記念公園としてリニューアルするプランを発表。スタンドには、イタリア国内の犠牲者3万5千人を象徴する3万5千本の糸杉を植林。糸杉は何千年も前から地中海域で生息し、その空に向かって高く育つ姿は不死のシンボル、あるいは死後の世界の象徴とされ、多くの墓地や聖なる場所の景観を特徴付けてきた。リニューアルプランは、太陽光と雨水を直接受けられるよう既存のルーフを取り除き、スタンド下の屋内をミュージアムや、リサーチセンター、学生たちのためのアトリエなどに活用する、というもの。レンダリングからは元サッカー場とは思えない静寂さが漂う。

プロジェクトはこちらからご覧ください
<https://www.dezeen.com/2020/07/17/san-siro-coronavirus-memorial-angelo-renna/>

ファッションへアートとデザインの要素を取り入れ、想像力溢れる作品をインスタグラムで発表するのは、フランス人Jeanne Vicerial。ローマにあるフランスアカデミーのレジデンスVilla Mediciに滞在中ロックダウンに遭遇した彼女は翌日すぐに、自身のテーマ「肉体と洋服の関係」を、自由奔放にアイロニックな手法で表現するプロジェクトをスタートさせた。ファッション科を卒業したものの、昔は洋服が人間の肉体に適応していたのが、今では洋服に肉体を合わせる、つまり着る人が単なる既製品の消費者になっていることに疑問を抱き、今一度肉体との関係を見つめ直すためにローマに来ていた。フランスで在学中は、筋肉のシステムからインスピレーションを得たTricotissageという、一本の長い繊維を開発しその特許



JEANNE VICERIALの作品。
画像) WWW.INSTAGRAM.COM

を取得している。クチュールの技術も持ち合わせ、ファッションの枠にはまらないアート色の強い非常にインパクトある作品へは、ヴィッラの庭に咲く花々や有機素材も使われている。毎日インスタグラムに投稿された画像から、明るい光を感じた人も多かっただろう。

インスタグラムにアップされた画像はこちらからご覧ください www.instagram.com/jeanne_vicerial/?hl=it

現状を冷静に見つめ、この危機を好機と捉えて積極的にアプローチするデザイン例を、今回のレポートでいくつか紹介させて頂いた。イタリア人の底力が今を着実に乗り越え、歴史に残るだろう大きな転換期を作り出していると感じる。

一刻も早く、平穏な日常が戻りますように。

執筆者 略歴

池田美雪 インテリアデザイナー 武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒

Istituto Europeo di Design 建築インテリア科卒

1994年よりミラノ在住 個人邸の改築、パブリックスペースの設計に携わったのち
2005年より クリエイティブ・コンサルティング会社(デジタルゲーム、ウェブサイト、
グラフィックデザイン) の共同経営者として活動

デザイン・アートに関するプロジェクトコーディネイト、翻訳および通訳

mikeda.it